

「甲斐の国都留の郡は」

こおり

都留文科大文学科教授 久保木哲夫

四半世紀という言葉があるが、私が都留文科大にお世話になってからこの三月でちょうど二十五年経った。結婚は大学に来た年の十月だったから、今年の十月でやはり銀婚式、その時すでに三十五歳になっていたから、先日の誕生日で何と還暦を迎えたことになる。どうでもよいようなことばかりだが、私にとっては非常に区切りのいい年であることは確かだ。

大学では平安文学を担当している。都留という町には大学へ来るまで全く関係がなかった。しかし名前だけは何度も聞いていて知っていた。「都留の郡」という地名がしばしば平安時代の作品に登場するからである。

君が代は都留の郡にあえて来ね
定めなき世の疑ひもなく
君がため命かひへぞ我は行く都
留てふ郡千代を売るなり
世の中の人は死ぬれど甲斐の国
都留の郡はわが身なりけり
雲の上に菊掘り植ゑて甲斐の国
都留の郡を移してぞ見る

紙面の都合で一首一首説明できないのが残念だが、たとえば二首目の歌は、都から甲斐の国へ派遣さ

れた時の挨拶の歌で、「あなたのために私は命を買いに甲斐へ行くことです。都留という地は千年もの長寿を売っていると云いますから」という意味だし、四首目の歌は、宮中での歌合の折のもので、「この宮中によそから菊を掘り植ゑて、長寿で名高い甲斐の国の都留を移したようにして見ることでず」という意味である。いずれにしても「都留の郡」は「長寿」を意味していて、特別な使い方がされていることになる。

もちろん「都留の郡」というのは今の都留市だけでなく、大月や吉田も含めて、南北都留郡全体を指している地名であろう。その「都留」に「鶴」を言い懸け、鶴は千年もの間長生きするから、だから「長寿」なのだという言い方のようにも思われるが、実はもっと古く、そうした表現のものになっている話がある。今は失われてしまった「甲斐国風土記」という書物が奈良時代にあつて、その一部がたまたま他の書物に引用され、次のような形で残っている。

甲斐の国の都留の郡に菊生ひたる山あり。その山の谷より流るる水、菊を洗ふ。これによりてその

水を飲む人は、命長くして鶴のごとし。よりにて郡の名とせり。かの国の風土記に見えたり。

(和歌童蒙抄)

要するに都留という地名のいわれを述べた話で、この地方に菊の水の流れがあり、それを飲む人は鶴のように長生きしたので、地名を都留としたのだという。「都留」という漢字をあてたのには特に深い意味があるわけではなく、いわば万葉仮名で、今のような仮名がなかった時代の仮名の代りだと考えればいじらう。

こうした話がどこまで本当かはただし保証の限りではない。中国にもよく似た話があるので、おそらくその影響を受けているのだろうと言われているが、平安時代の人達は少なくともそれを信じていたのだと思う。しかも大部分の人達はかつての私と同じように、都留の地へは一度も足を運んだことなく、知識の上だけで歌を詠み、理解していたのであろう。

高齢者社会になって、還暦などというのは格別めでたくも何ともない時代になった。私の現在の関心事はむしろ大学の将来のことである。十八歳人口が減って、大学にとって冬の時代が来ることは確実だが、その時都留文科大はどのような形に生き延びているのだろうか。目下教授会を中心に議論を繰り返しているが、どうか都留の地にあやかかって長寿であつてほしいと思わずにはいられない。

文化協会部門別紹介

都留剣詩舞会

吟剣詩舞は、古くから武士の芸道として修練されたものと言われ、おりましたが、そのあふれる気魄と豊かな詩情は、今日においても日本人の心を呼びさまし、多くの人々に親しまれ、精神文化の高揚に大きく寄与いたしております。

会員の信条として、礼節を修め、趣味を深め、融和な人間関係を図り、明るい社会づくりに貢献することを心掛けております。

全国吟剣詩舞道大会への参加、ボランティア活動、温習会等、多

くの実績を残しております。

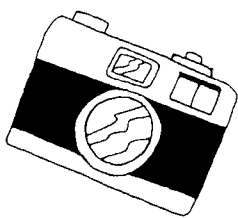
月三回の練習は、文化会館、地区の公民館等を利用して、和やかな雰囲気の中で行われております。入会希望の方は、気軽にご連絡ください。

連絡先 岩田 章

都留市鹿留三二二三の二

☎(43)4643

桂フォトクラブ



当クラブは、現在十五名程の写真愛好家で構成され、毎月二十六日に例会を行っております。例会日には、各自決められた題材にもとづいて写真を持ち寄り、東京の富士写真フィルムに送り審査してもらい、腕をきそっております。

年間の行事として、新年会、モデル撮影会一回、撮影小旅行一回、忘年会(年度賞)のほか、毎月の月例写真会を実施しております。

入会を希望する方は、カメラのイトー(事務局)迄ご連絡ください。
☎(43)2234

